

地方における知財活用促進タスクフォース
第2回：産学連携における大学の知財の活用促進 説明資料

資料 1 - 3

地方における知財活用促進
タスクフォース（第2回）資料 1

地方大学による産学官連携

－三重大学の事例からの考察－



2015年3月4日(水)

三重大学大学院医学系研究科・教授
地域戦略センター長
副学長(社会連携担当)
西村 訓弘
(*Norihiro Nishimura, Ph.D.*)

三重大学について



内田淳正 学長

- ◇生物資源学部・生物資源学研究科
- ◇医学部・医学系研究科
- ◇工学部・工学研究科
- ◇教育学部・教育学研究科
- ◇人文学部・人文社会科学研究科
- ◇地域イノベーション学研究科

○学生数

学部 6,148名 (男3,761名 / 女2,387名)

大学院 1,150名 (男854名 / 女296名)

○教員数 768名 (教授261名 / 准教授200名 / 講師86名 / 助教221名)

○職員数 950名

(2014年5月1日現在)



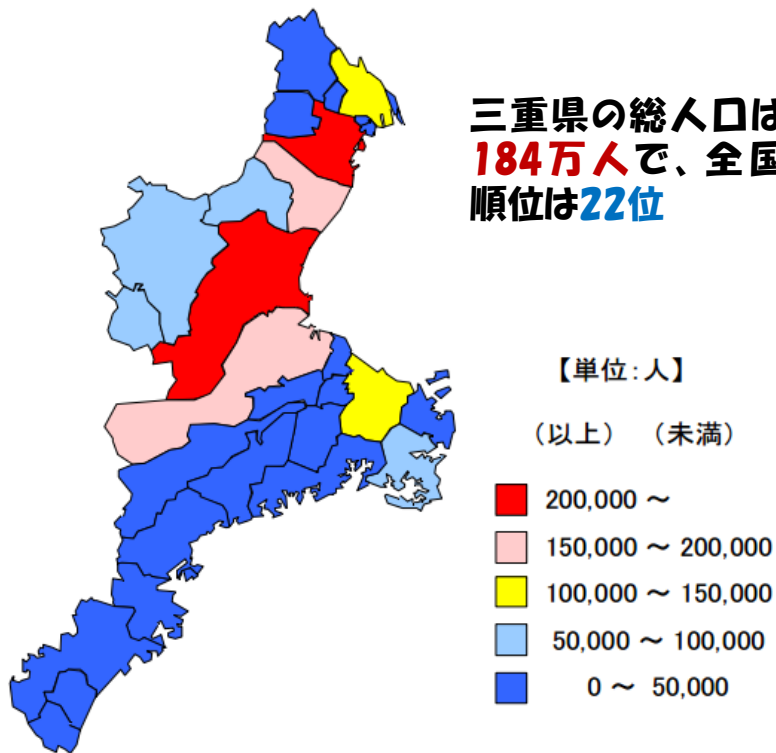
撮影: 雲井純・三重大学客員教授(百五経済研究所・代表取締役社長)

三重県の現状

人口

「市町別人口」

三重県の総人口は
184万人で、全国
順位は**22位**

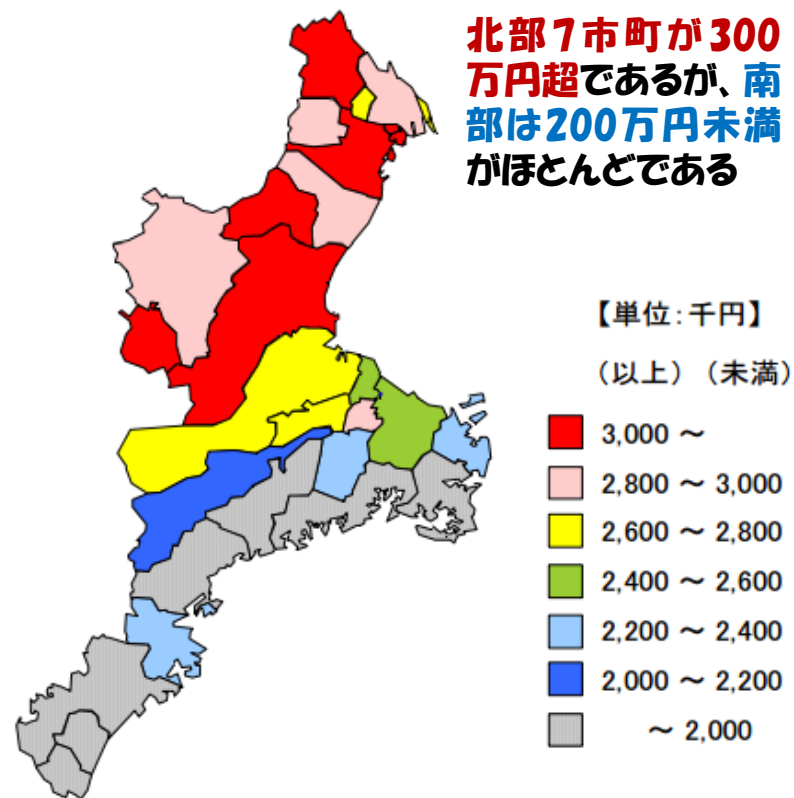


(出典：三重県統計でみる三重のすがた(平成26年3月))

四日市市、津市、鈴鹿市の順に多く、**10万人以上の上位6市で県全体の約67%を占めている。**

1人当たり市町民所得

北部7市町が300万円超であるが、**南部は200万円未満**がほとんどである

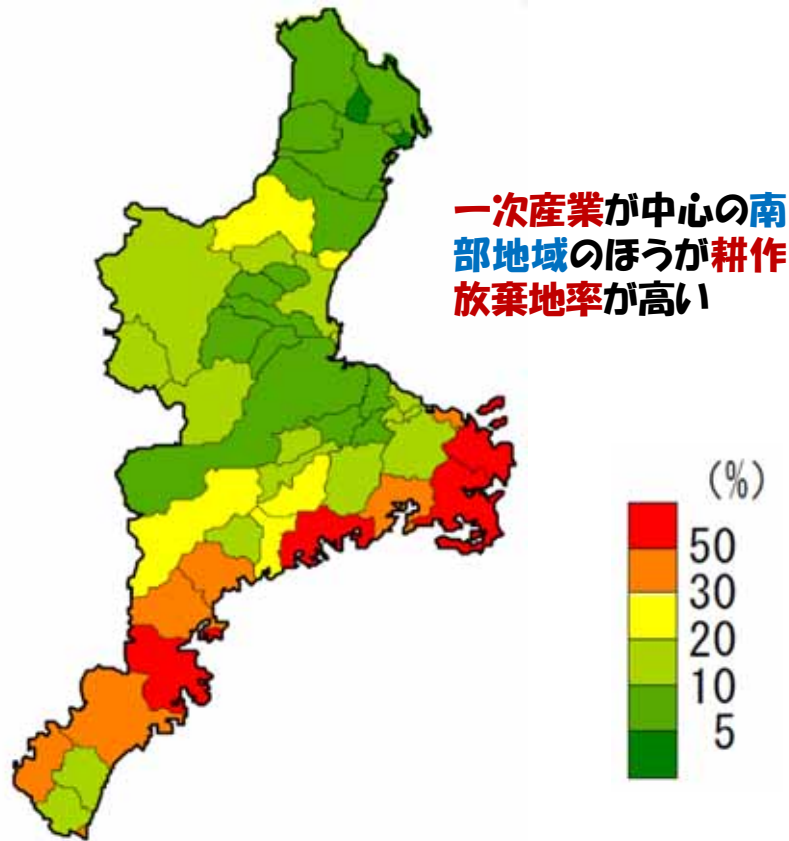


(出典：三重県統計でみる三重のすがた(平成26年3月))

北部と南部の**生活格差が増加し**、三重県における**南北問題**となっている。

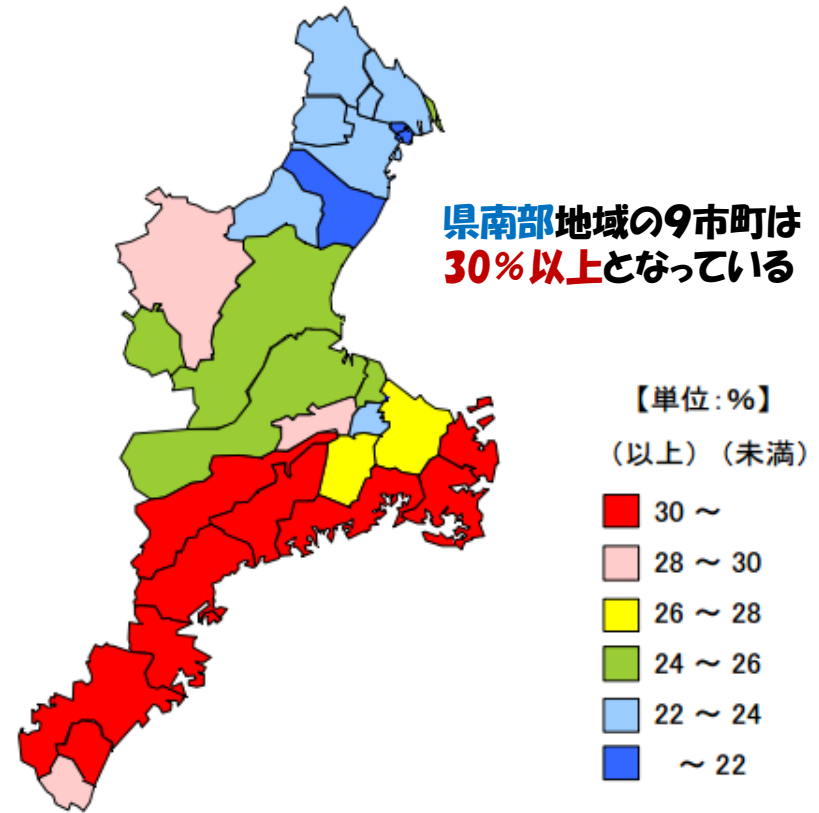
三重県の現状

市町別耕作放棄地率



(出典：農林水産省「2005年農林業センサス」)

老年人口割合

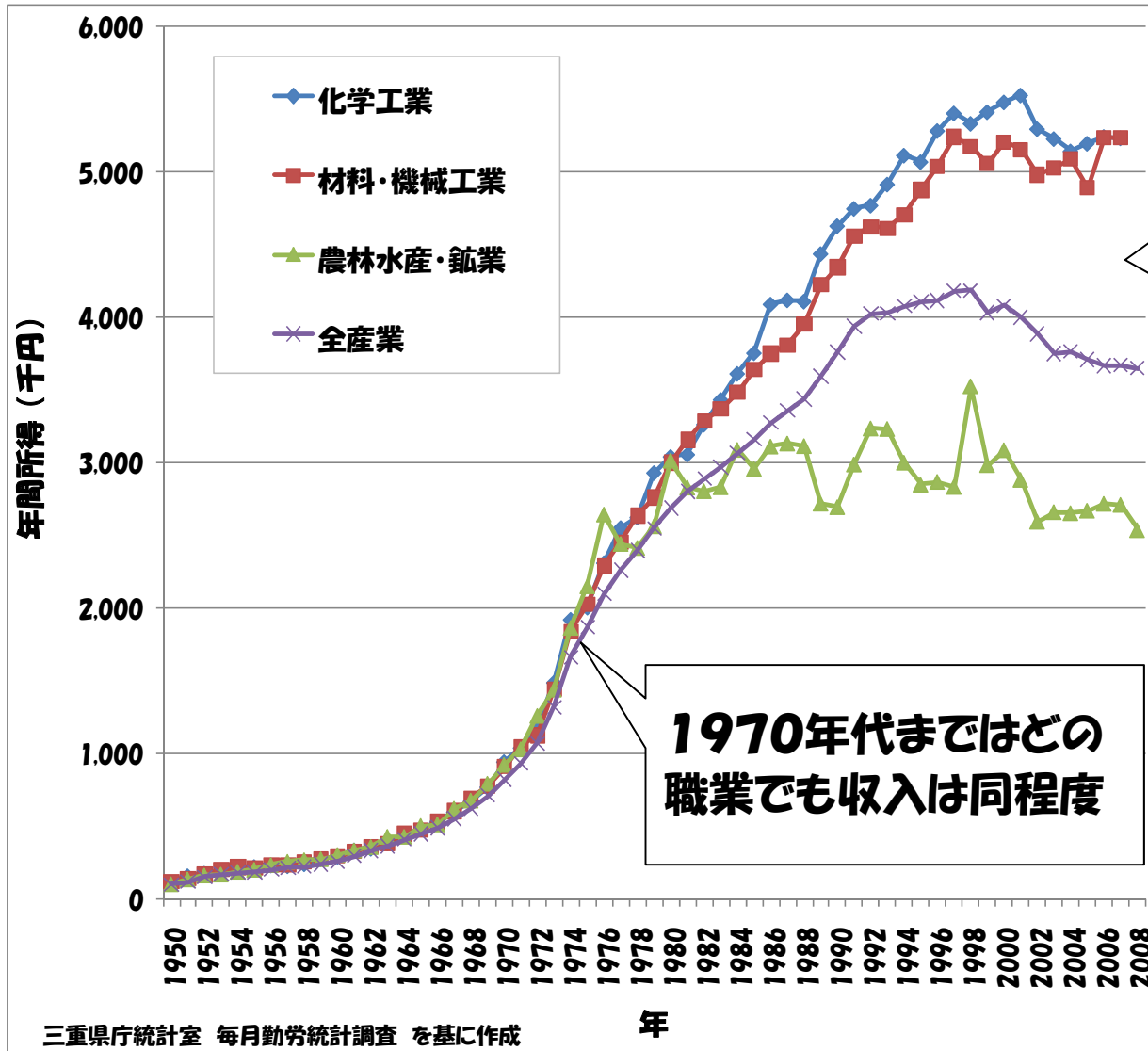


(出典：三重県統計でみる三重のすがた(平成26年3月))

農林水産業が主たる産業である南部で耕作放棄と高齢化が急速に進行している

三重県における格差はなぜ生じたのか？

- 産業別年間所得の推移からの考察 -



高度経済成長に伴って、**第一次産業**と**第二次産業**で所得に格差が生じ、**第一次産業の衰退**が生じた。



三重県南部での**過疎化**と**急速な高齢化**を招いた。

今の時代に必要なこと

「21世紀に合わせた社会システムの変革」

(現状) 20世紀の経済発展は必ずしも地域社会の幸福には繋がっていない。
高度成長期に作り上げてきた社会システム(常識)は、良い時期もあったが成長から定常期(21世紀の社会)への変化に適應できていない？

20世紀	社会基盤を作る時期	個人力 < 集団力
21世紀	社会基盤を使う時期	個人力 > 集団力



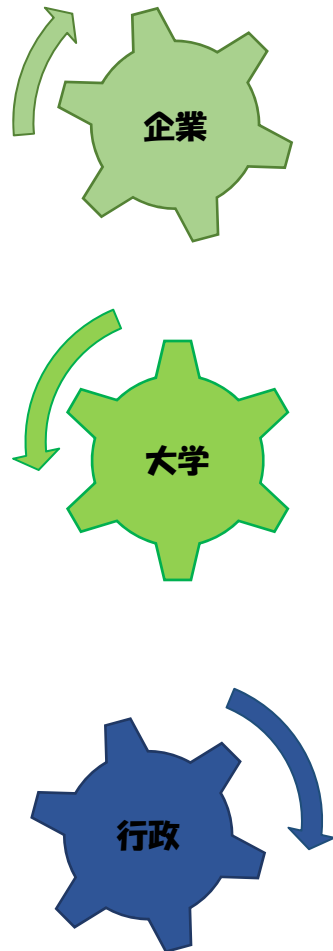
現代社会に求められていることは、
「21世紀に適した社会システム」と「今の時代に適應した生き方」
を創造すること。



「21世紀への適應」は、「20世紀の高度成長に伴って衰退した地域」から生まれると私は考えている。

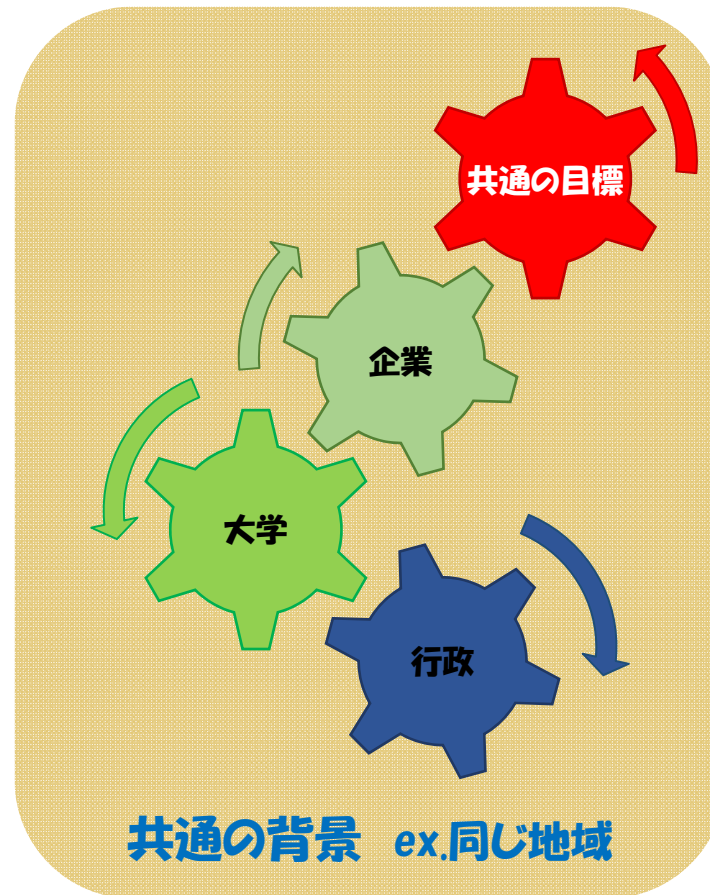
産学官連携について

企業、大学、行政は、単独では目的が異なる存在である。



目標の共有化

共通の目標の達成のために協働する



=

成功する産学官連携

地域社会と地域企業と地方大学の関係



地域イノベーション学研究科の新設

地域産業界と連携した人材育成と技術開発に特化した大学院

(時代背景)

産業界では複数の最先端技術の融合によって新事業・製品が生まれ出されグローバルに展開することが頻繁に起こっており、三重地域圏の企業にも業界の変化に呼応した経営改革(第二創業)が必要となっているが、現実には個々の企業における「**研究開発力の脆弱さ**」と「**人材不足**」がその障害となっている。



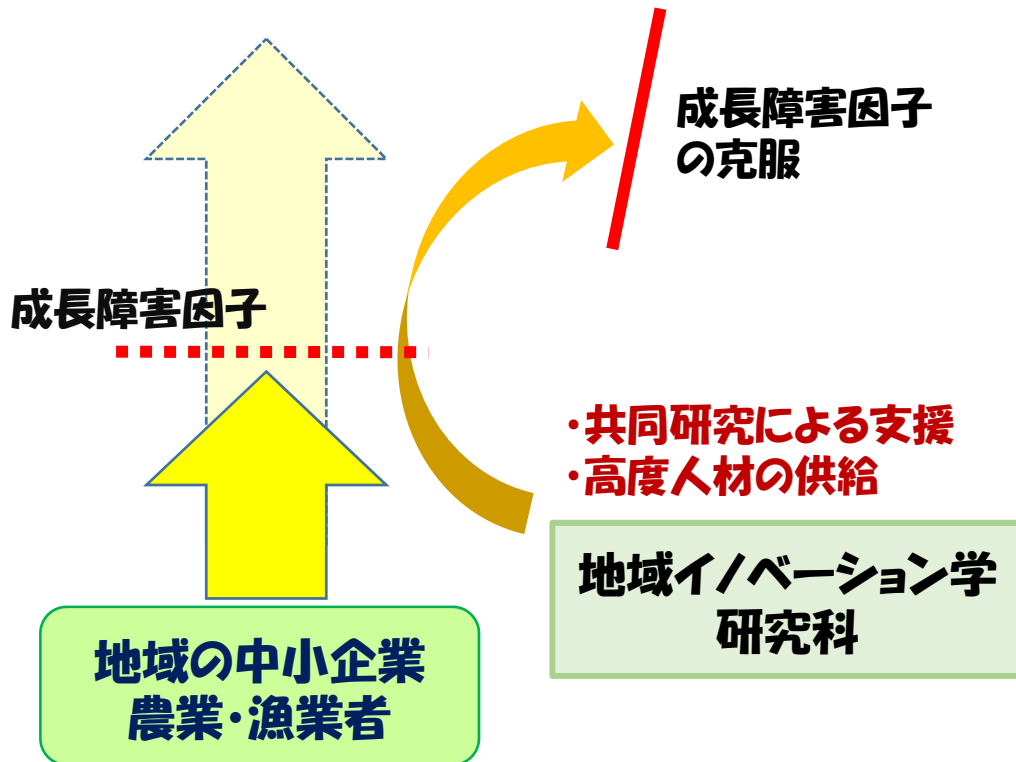
地域産業界からは、「**第二創業に貢献できるような高度人材の育成**」と「**第二創業の基盤となる新技術構築への協力**」が三重大学には求められている。



地域産業界からの期待に応える具体策として「**地域イノベーション学研究科**」を新設し、地域社会への貢献を実現していく。 **平成21年4月から開始**

地域イノベーション学研究科の目標

地域企業・一次産業が抱える**成長障害因子**を取り除くことで、**新事業構築**を実現させ、**地域発のイノベーション**を誘発する。



地域イノベーション学とは、

「大学が形成・蓄積してきた研究成果と知識を活用することで、地方立脚型の企業が抱えている成長障害要因を克服するための具体策を探求し、産学連携によって地域産業を活性化させるための方法論を見出すことを目標に研究を遂行する学問領域」

三重大学が提案した考え方であり、三重大学が切り開いていく学問領域

↓
地域イノベーション学会を設立した
(平成23年7月～)

三重大学地域戦略センターの設置

三重大学は、地域自治体、産業界の全体を見渡した政策提言と政策実現のための施策（プロジェクト）を提供する地域シンクタンクとして2011年4月に「**三重大学地域戦略センター-Regional Area Strategy Center : RASC(ラスク)**」を設置しました。

国立大学初の**大学発の地域シンクタンク**として、地域振興、産業育成、環境政策、医療福祉政策など幅広い戦略を立案していきます。

百五銀行、百五経済研究所、野村証券、三重TL0と連携し、地域の自治体に対しての総合的な政策提言や、産業育成・活性化のための企画などを行うことにより、これまでの地域貢献の取り組みの強化を図ります。

○スタッフ構成

センター長(社会連携担当副学長)

副センター長(広報担当副学長)

連携協力員1名(社会連携特任教授)、産学官連携研究員3名

事務補佐員4名

+ 社会連携研究室5名(助教1名、研究員3名、コーディネータ1名)が連携協力

+ 各研究科から教員がプロジェクト単位で連携協力